

がんが消えた！

断食、ストレス克服…。やがてガンの消滅！（田中 一久）



開封の
ユダヤ人宅を
訪れたときの
田中一久さん。

信仰を持つて

私は高校生の時に、先に信仰に導かれた大学生の姉から、キャンパスクルセードの活動を通じて、信仰に導かれました。

伊勢神宮のある三重県に生まれ、子供の時から伊勢神宮に行くたびに、参道の全ての石灯籠に、天皇家の菊の御紋と共にダビデの星があるのを見て、不思議だなと思っていました。

信仰を持つてからは、久保先生の本を通じ、古代ユダヤ教と日本文化に深い繋がりがあることを知りました。また渡来人・秦氏のことや、神道と聖書の関係等を知りました。

そして京都の太秦や、長野の諏方大社を訪れて、実際に確かめてきました。

仕事は、三重県農業研究所で、野菜の試験研究や農業改良普及員



として、現場での農業指導を行ってきました。

95年に中国河南省との交流事業で、3か月中国に滞在しました。それをきっかけに、中国における東西の文化交流の歴史や、中国におけるユダヤ人の事、また唐の時代に中国に広まったキリスト教の景教のことなどに、関心を持ちました。

そして古代イスラエル人の末裔と伝えられる河南省・開封のユダヤ人宅を訪れました。

また日本景教研究会の会員になり、景教碑や、西安の大秦寺の調査等を行ってきました。

現在は63歳になり、すでに仕事も退職し、津市白山町の教会に通っています。

がんの癒やし

2019年の秋に、私は健康診断を受診したところ、前立腺がんと診断され、精密検査を受けました。

結果、前立腺がんのステージはグリソンスコアアの7（中期）、腫瘍マーカーのPSA値（正常値は4以下）は44でした。
リンパへの転移はありましたが、骨や肺等、ほかの臓器への転移は見られないとのこと

した。そして今年1月からホルモン治療を始めました。

がんの告知を受けた当初は、私の周りにはがんで亡くなられた方も多く、とうとう自分にも来たかと、いきなり死が、目の前に迫ってきました。

眠れない日が続きました。そんなとき、夜中に、久保先生のユダヤ関係のユーチューブを見ていました。

すると驚いたことに、久保先生の動画リストの中に「がんが自然に消える生き方」があったのです。

そこでは、世界中のがんを克服した人々に共通する生き方や、総合療法、精神生活の重要性を指摘しておられました。

なぜ久保先生のユーチューブの中に、がんに関する動画があるのか不思議でしたが、神様の導きを感じざるを得ませんでした。

それをきっかけとして、がんに関する動画を片っ端から調べ、数日間それらを見続けました。

その結果、世界中にがんが治った方が多くいて、がんは必ず治すことができるかと確信できたのです。

私は、動画で紹介されている方法の中で、自分にできそうな事を選んで、早速実行することになりました。

がんを克服するには、「がんは必ず治る」という事を知った上で、死の恐怖から解放される事が重要である、と言われています。そこで私がまず第一に行ったことは、「よく笑う」事でした。

私はウォークマンで落語や漫才をよく聞いていますし、家でも普段から、家内と世間話で大笑いしています。

祈りの中でも、明るい心の祈りを心がけ、感謝と讃美を中心に、必ず治していただけるという信頼を抱いて祈りました。

第二には、具体的な目標をもって前向きに生きることです。

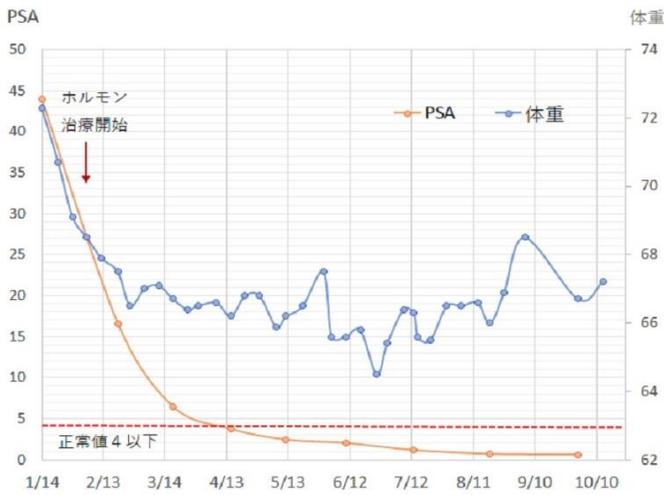


図1 体重とPSAの推移

私たち夫婦は、私がガン宣告を受けた1月から、1年間で聖書を音読する目標を立て、毎晩旧約聖書3章、新約1章を音読しています。

通読が終わったら、聖地旅行に行く計画を立てています。来年コ

ロナが終息すれば、ぜひ実現したいと思っています。

第三には、食生活の改善です。主食は、減農薬の玄米にし、納豆、豆腐等の大豆食品や、野菜や、キノコ類、海藻等を多くとりま

す。

野菜はジュースにすると、多くとれるので、ニンジン、リンゴ、レモンのジュースを1日1・5〜2リットルとるようにしました。

すべて生野菜からジュースにするとよいのですが、私は生野菜からは半分ほどとり、あと半分は市販のニンジン・野菜ジュースを用いました。

第四には、定期的に断食を行いました。

毎週2日間の6食を抜きま

す。

そのあいだ食事はとりません。しかしニンジン野菜ジュースは、毎日2リットルほどとりました。

ですから完全な断食というわけではありませんが、ジュースは毎日飲むため、断食中も、空腹感はほとんどありませんでした。

そのような生活を続けた結果、腫瘍マーカーPSAは、3か月で正常値の4以下に下がりました。

8か月後には、さらに0・67まで下がりました(図)。

また、体重も内臓脂肪も大幅に下がったのです。

これまで人間ドックを受けるたびに、脂肪肝と言われてきましたが、それも正常となりました。

病院でのホルモン治療も行っていきますので、それらを合わせて、このような結果になったと思います。

今回のことをきっかけとして、私たちの今後の考え方は、大きく変わりました。

これまででは、老後は趣味を生かしながら、ゆつくり楽しく過ごしたいと思っていました。しかし、

大切なことが欠けていたのではな

いか、と気づかされました。

つまり、自分が楽しく過ごすことが優先され、神様のために自分たちを活かしていただきたいという思いが、欠けていたのではな

いかということでした。

うちの家族では、長女はクリスチャンホームを築いています。しかし二女や、長男はまだ信仰を持っていません。母や妹も、まだ救われていません。

私たちが第一にすべきことは、まず彼らの救いのために尽くすことであり、そのために私たちを用いていただきたい、と願っています。

さらに、これまで活動してきた景教や日本文化と聖書のつながりを伝える中で、これまでの西洋の宗教としてのキリスト教とは違った視点で、福音をお伝えする働きを進めるために、私たちを用いていただきたいと願っています。

R